



令和4年度 学校経営の全体構想

中津川市立川上小学校

【県の基本方針】

◇第3次 岐阜県教育ビジョンの確実な推進
「地域社会人」育成と「3つの力(自立・共生・自己実現)の融合」

【市の教育の方針と重点】

◇めざす姿：「よりよいひとりだち」
方針：生活・学習における基礎基本の習得とたくましい子の育成「知識と知恵」→「生きぬく力」

【学校課題】

◇仲間や環境に主体的に働きかける中で、自信や誇りにつながる自己肯定感を育む教育
《知》・「主体的・対話的に学ぶ姿」「興味をもち楽しく学ぶ態度」の育成⇒『確かな学力の定着』
・「読む・話す・書く力」「情報活用・問題発見解決能力」の育成⇒『読書啓発』『ICTの活用』
《徳》・少人数集団での活動を生かした「思いやる心」の醸成⇒『学級やたんぼぼ班で人権意識の向上』
《体》・自分の命と心身の健康を守るための知識と生活習慣の獲得⇒『健康・安全・保健教育の充実』

【学校の教育目標】

自分の考えをもち みんなとともに 向上しようとする子

○かんがえる子 ○あたたかい子 ○きたえる子



【経営の視点】

- 1 児童の成長、保護者の安心、地域の希望を保障する学校
- 2 三者（児童、教職員、保護者）の笑顔をつくり出す学校

全教育活動を、児童を褒める材料に。そして、児童の主体性と自己肯定感を育む場とする。そのためのひと手間・ひと工夫を大切にする。

【経営方針】児童の主体性を引き出し、自己肯定感を育む

- 1 「できた・わかった」を大切にする授業（UD化）
- 2 四本柱向上への主体的取組（挨拶・掃除・学習・読書）
- 3 地域への誇りと愛着を育むふるさと教育の推進
- 4 たんぼぼ班活動等を通じた人権教育の充実
- 5 個の実態に寄り添い、個の伸びや変容を尊重

【めざす職員集団】寄り添い工夫する

- 1 “チーム川上”で協働できる職員集団
- 2 児童の主体性を引き出し、自己肯定感を高めるためにひと手間かけ、ひと工夫できる職員
- 3 児童とともに活動し、活力を与えられる職員
- 4 研修や指導改善からスキルアップに努める職員
- 5 互いの心身の健康のための、働き方改革推進

《知》考える子

確かな学力

- 「わかりたい」「やりたい」といった学習意欲のもてる子
- 仲間や環境に主体的に働きかけ、情報を活用し問題解決に向かう子
- 「わかった・できた」と実感する子

- ★UDを大切にした授業づくり
- ・個別支援の充実、一斉指導脱却
- ・意欲の喚起、対話づくり
- ・ICTの活用
- ★実態に応じた家庭学習指導

《徳》あたたかい子

豊かな心

- 理想を掲げ、その実現に向け工夫し、ひと手間かけられる子
- 相手の立場を考え、主体的に相手に働きかけ、感謝・励まし・助言等を伝えられる子
- 対話の中で自己を見つめる子

- ★たんぼぼ班活動の充実
- ★“よさみつけ”の充実
- ★道徳の授業の計画的な実施
- ★対話的で整った掲示・教室環境

《体》きたえる子

健やかな体

- 心身の健康づくりに進んで取り組み、自己管理のできる子
- 仲間と力を合わせて活動したり遊んだりできる子
- 悩みを素直に相談し、その克服に前向きに取り組む子

- ★外遊び、仲間遊びの推進
- ★月1生活アンケートと教育相談の充実
- ★健康・安全・保健教育充実

<四本柱> おあじな挨拶・まごころ掃除・かかわり学習・つながり読書

<家庭や地域との関わりを深める学校>

- 保護者や地域の願いを教育活動に反映
- 学校の教育活動や成果の積極的な発信
- 地域行事への積極的な参加（児童・教職員）
- 地域人材や文化などの積極的な活用
- コミュニティ・スクール化推進

<特色ある学校>

- 少人数の強みを生かし、個々の実態に寄り添う
- 異学年でかかわり合う「たんぼぼ班活動」
- いつでもどこでも思いを語る「ふり回りタイム」
- 川上の自然や伝統を生かし、地域と連携した「ふるさと教育」（もみじ祭、木育、川観察、スケート等）

【目指す児童の姿】仲間や環境に主体的に働きかけ、自己肯定感を豊かに感じられる子の育成 ～ふるさと川上を愛し、ふるさと川上に生きる子～

【評価目標】「学校が楽しい」「授業がわかる」の児童評価“3.5以上”（学校評価の4段階評価）

※ただし、平均値のみで評価しない。個の実態を把握した上で個別の指導・支援の充実を図る。